

連携室だより

目次

- P1..... 今年度の取り組みについて
- P2..... 診療科部長着任のご挨拶
- P3..... 栄養サポートチームのご紹介
- P4..... 認定看護師のご紹介
- P5..... 院内待合椅子がリニューアルしました！
ふれあいざらりーのご紹介
- p6..... 新任医師のご紹介

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関等との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

1. 適切な医療を受ける権利
2. 医療に関して知る権利
3. 医療行為を自分で選ぶ権利
4. プライバシーを保護される権利
5. 人権を尊重される権利
6. セカンドオピニオンを受ける権利

「秋晴の高原沼」 当院写真部 森谷 撮影)

今年度の取り組みについて

短い秋も終わりをづけ、少し早い冬の足音が聞こえてきました。今年度は、320列CT導入により冠動脈CTやPCIのご利用が順調に増加しており、またがん診療連携指定病院として皆様に積極的にご利用頂き感謝しております。更に皆様にご利用して頂きやすい体制を目指し、新しい取り組みを進めておりますので、ご紹介させていただきます。

1. がん診療の体制の充実

4月のがん診療連携指定病院への指定を受け、がん診療は勿論ですが、キャンサーボード（症例検討会）、がん診療に関わる講演会や勉強会、緩和医療の勉強会開催に取り組んでいます。先日もがんをテーマとした市民公開講座を市内ホテルで開催し、約200名の皆様にご参加を頂きました。

2. 紹介患者様優先の診療

脳神経外科、神経内科では9月より連携室経由の紹介患者様優先の新患診療を開始致します。新患の診察順番を原則として連携室予約>紹介状持参>一般受診患者様の順とし、従来以上に紹介患者様の待ち時間短縮を計ります。体制が整えば、院内他科へも広めたいと考えております。

3. 眼科診療の強化

7月より旭川医科大学眼科前准教授 籠川浩幸先生を第二眼科部長にお迎えし、眼科医が3名に増員となりました。今迄長期にお待ち頂いた手術待機が減少し、硝子体手術も可能となりました。

4. 脳卒中あんしん連携ノートの普及

脳卒中診療の連携強化を目指し、122の医療機関よりご協力を頂き、一部の運用を開始致しました。10月に運用の説明会、11月には講演会を行い、本格運用へ拡大して参ります。当院と回復期リハビリテーション医療機関そしてかかりつけ医を結ぶ要として期待しております。



副院長 吉田 一人

まだまだ医師のマンパワー不足は続いておりますが、複数の診療科で増員の計画が進んでおります。良質な高度急性期医療や専門医療を目指し、皆様のご要望に応えるべく、引き続き地域連携を進めて参りますのでご支援お願い致します。



診療科部長着任のご挨拶

資格・認定
日本眼科学会専門医・指導医
医学博士
第二眼科部長 **籠川 浩幸**

このたび、2013年7月1日付けで眼科に赴任しました籠川浩幸と申します。私が新たに眼科の一員に加えていただき3人体制になりました。この場をお借りして、一言ご挨拶申し上げます。

私は、1993年に旭川医科大学の15期生として卒業し、旭川医大眼科学教室に入局しました。入局後は、研修医として旭川医科大学病院、当院、釧路赤十字病院、美唄労災病院にて2年間研修させていただきました。その後、大学院に進学し、在学中にハーバード大学ジョスリン糖尿病センターへ留学させていただき、糖尿病網膜症と眼血流の研究に従事してまいりました。大学院修了後は、北見赤十字病院、室蘭日鋼記念病院での3年間の勤務を経て、2003年より旭川医科大学病院へ戻り、当院赴任までの10年間、硝子体手術、加齢黄斑変性の診断・治療を専門に臨床を行ってきました。眼科ではこれらの分野がここ数年で急速に進歩し、硝子体手術は25Gの器具を用い無縫合で手術を行うことが可能となり、さらに今年度末には27Gの器具が発売となる予定です。またiPS細胞を使った最初の臨床試験が行われることになりました加齢黄斑変性は、数年前までは有効な治療法がありませんでしたが、抗VEGF抗体の硝子体内注射の治療法が新たに開発されました。大学病院ではそのような専門分野を長年診療してきて恵まれていた反面、一般眼科診療からは遠ざかっており、当院赴任後はそのレベルを向上させなければと痛感しています。

当院では、最新型の硝子体手術装置、加齢黄斑変性などの診断に不可欠な診断機器を導入していただいております。一般眼科診療の他に、大学病院時代の専門を生かして糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑疾患などに対する硝子体手術、増加傾向にある加齢黄斑変性の治療も積極的に行っていきたいと思っております。

地域における中核病院で高度急性期医療を担っている当院において、手術を主体として少しでも病院に貢献できるよう日々努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

栄養サポートチーム (NST) のご紹介

当院の栄養サポートチームは、2002年10月に活動を開始し、2004年日本静脈経腸栄養学会よりNST稼働施設認定、NST教育認定施設認定を受けております。

現在のNSTメンバーは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士、事務職員で構成しており、事務局は栄養課が担当しております。各職種とも、本来の業務と兼務しながら、活動当初より週1回のNSTカンファレンス・回診を行っています。

栄養管理の充実を図るべく、さまざまな取り組みをおこない、経腸栄養ガイドラインの作成と改訂、不在であった言語聴覚士の配置の要望、口腔ケアの実施の院内統一、摂食嚥下マニュアルの作成などについておこなってまいりました。

毎月1回のNST院内研修会を開催し、NST委員のメンバーが講師を務め栄養管理に関する啓蒙を行っています。

NST専門療法士実地修練については、NST専門療法士の資格取得を目指す実習生の受け入れを、院外からも年1回程度（今年度は6月に院外より4名受け入れ）行っております。

今回4月より、NST加算取得を開始致しました。専従は管理栄養士、専任の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士を配置しております。

転院の際には、NST介入患者様についてのみではありますが、栄養サポートチーム栄養治療実施報告書を地域連携先の病院様に送らせていただいております。

NST介入となる症例は、熱傷、褥瘡、皮膚の潰瘍、脳卒中等様々な疾患ではありますが、半数以上が80歳以上のご高齢者であります。急性期である当院では、栄養サポートを開始しても入院中だけでは栄養状態の改善までには至らず、連携先の病院様に栄養管理の継続をお願いすることが不可欠であります。スタートしたばかりで、記載内容も充分ではありませんが、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。お気づきの点をご指摘いただければ幸いです。

連携先の病院様と、地域全体での栄養管理の充実に向けた取り組みについておこなっていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。



旭川赤十字病院 認定看護師のご紹介

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動

今号では、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動をご紹介します。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、平成25年7月現在、全国に386名、北海道では14名、旭川市内では3名が登録されています。

脳卒中リハビリテーション看護の大きな柱は「急性期の重篤化回避のためのケア」「機能回復のためのケア」です。脳卒中の予防と、脳卒中を発症した場合、入院した時点から、在宅、社会復帰を視野に入れ、機能回復支援の看護を展開していきます。当院では急性期の看護が中心となりますが、全身管理や神経症状のアセスメント、リスク管理、多職種と連携し早期離床と合併症予防、障害を抱えながらも日常生活行動が自立できるように日々の看護を行っています。

当院での脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の具体的な活動内容の一部をご紹介します。

① 脳卒中急性期ケア

脳卒中は、急性期には再出血、脳浮腫等で生命の危機的状況や重篤化することがあります。重篤化予防の為の血压管理、神経症状の観察と看護を行っています。

② 早期離床、廃用症候群予防のケア

術後のドレーン挿入、人工呼吸器が装着されている状態でも、リスク管理を行いながら離床を進め、ベッドから離れて生活行動がとれるよう援助しています。

③ 多職種との連携、調整

障害を抱えながらも患者さまとご家族が安心して在宅や社会復帰できるよう、リハビリテーションスタッフと連携して日常生活行動自立に向けた援助を行っています。また、医療ソーシャルワーカーを介して、介護保険や社会資源の活用等の支援を行っています。

④ コンサルテーション

離床を進める際の血压管理や注意点、食事開始に向けた援助、各種ドレーンの管理方法、失語症などでコミュニケーションが困難な患者さまへの対応等の相談を受けています。

⑤ 院外活動・学会発表

地域の医療関係の講演や、脳卒中看護についての研究を行い、日本脳神経看護研究学会などで発表を行っています。

以上、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動をご紹介いたしましたが、皆様の施設で、脳卒中ケアでお困りのことがございましたら、お気軽に地域医療連携室を通じてご相談下さい。

	氏名(資格取得年)	分野	コンサルテーション可能な項目
	伊藤 由紀恵 平成23年	脳卒中リハビリ テーション看護	①脳卒中急性期看護 ②意識障害、運動障害の看護 ③高次脳機能障害の看護 ④早期離床、廃用症候群予防の看護
	武藤 環 平成22年		

院内待合椅子がリニューアルしました！

～「家具の街 旭川」木のぬくもりを感じる待合室で居心地の良い癒しの空間を～
今年の6月、外来待合室・エレベータ前ホール等の椅子がリニューアルしました。

地元家具メーカーとのコラボレーションにより“安全・清潔、そして患者さまに優しい”『病院仕様』の椅子・テーブルが完成しました。病院なのにカフェのような空間と数々の配慮・工夫を「座って・触って・見て」患者さまにも感じて頂けたらと思います。

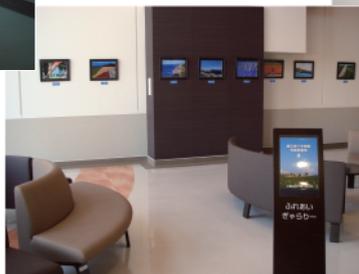
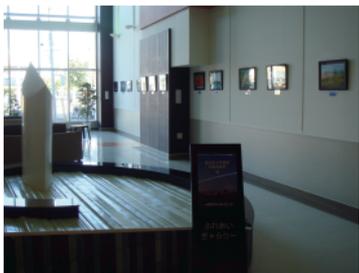


ふれあいぎやらりーのご紹介

1階アトリウムと2階講堂前に「ふれあいぎやらりー」を開設しております。

連携室だより表紙の写真を提供している、当院写真倶楽部の撮影した、美しい風景をはじめ、人物、動物、草花などの心癒される写真を展示しております。

展示写真は2か月程度で入替えをしておりますので、季節を感じる「ささやかな癒し」の空間を感じて下さい。



新任医師のご紹介

質問項目

- ①診療科
- ②取得指導医・専門医
- ③卒業年度
- ④地域医療機関の先生方へ一言！



ホソキ ヤヨイ
細木 弥生



- ①消化器内科
- ②日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医
- ③平成11年度
- ④よろしくお願ひいたします。

ハヤシ ハルコ
林 温子



- ①麻酔科
- ②麻酔科認定医・標榜医
- ③平成20年度
- ④旭川の地域医療に少しでも貢献できるよう尽力致します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

オクカワラ フタル
奥河原 渉



- ①麻酔科
- ②麻酔科認定医・標榜医
- ③平成19年度
- ④北海道に来て日が浅く、以後ご迷惑をおかけする事もあるかと存じますが、一生懸命頑張りますので、ご指導頂けると幸いです。

フジイ ふみ
藤井 ふみ



- ①歯科口腔外科
- ③平成22年度
- ④いつもご紹介頂きありがとうございます。7月に旭川赤十字病院へ参りました。精いっぱい頑張ります。よろしくお願ひ致します。



発行／旭川赤十字病院
地域医療連携室

〒070-8530
旭川市曙1条1丁目1番1号
TEL:0166-22-8111(代表)
TEL:0166-27-8585(地域医療連携室直通)
FAX:0166-22-8287
E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp